

島へ!

島から、島へ。
for islanders like Columbus

特別編集版

世界ジオパーク認定
10周年!!

180の島々から成る

隠岐諸島 「島前・島後」

超ド級の「大地の物語」に驚愕!!

なぜ隠岐周辺でナウマンゾウの化石が見つかったのか
なぜ隠岐の海岸に北海道のハマナスが咲いているのか



「隠岐ジオパーク」観光を体感!!

SDGsな

移住者急増!!
隠岐の魅力を発見!!

島前(中ノ島、西ノ島、知夫里島)・島後の 「ジオ資源」が 新しい、観光の 目玉!!

隠岐ジオパークのキーワードは
「大地の成り立ち」「独自の生態系」「人の営み」

島根県の北40～80*^{南北}、大小約180の島々から成る隠岐諸島。有人島は4島、そのうち中ノ島、西ノ島、知夫里島の3島を島前と呼び、北東の円形の島を島後と呼ぶ。この島前・島後は遠く先史時代、黒曜石の産地として全国から注目を集め、中世には流罪で流されてきた後鳥羽上皇ら貴族、そして後に一帯を支配する武家が数多くの文化・芸能をもたらし、近世には北前船の寄港地として大いに栄えた。時代とともに多彩な表情をみせる歴史もさることながら、その大地の成り立ちも実にユニークだ。火山活動で誕生した島ならではのダイナミックな地形と特異な地質は世界的にも価値があり、それが日本列島や日本海の形成、そして現代の島の環境や営みと深くかかわり合っていることから、2013年には世界ジオパーク(※)に認定された。島々は「隠岐ユネスコ世界ジオパーク」を軸とした観光振興に取り組んでおり、とくに認定10周年を迎えた2023年にはさまざまな関連イベントを実施、その魅力は着実に島内外に伝わりつつある。この冊子では、そんな隠岐諸島「島前・島後」の大地の物語に迫るとともに、近年、各島の住民や移住者らが挑戦している島おこしやにぎわいづくりの動きにもスポットをあててみたい。

※世界ジオパークは2015年にユネスコの認定プログラムとなり、以後は「ユネスコ世界ジオパーク」が正式名称に。

隠岐島前、知夫里島での1枚。約600万年前の火山活動によってできた島前のカルデラ湾を望む高台で、牛の放牧が行われている。まさに大地の力と人々の営みを感じられる隠岐ジオパークならではの光景だ





上/隠岐諸島の成り立ちを通して地球の活動を学べる場ともなっている 右下/Entôの原点は1971年開業の国民宿舎「緑水園」。1994年に増築し「マリンポートホテル海士」に改名、その後、本館の一部をリノベーションするとともに新棟を建設し、2021年にEntôとしてリニューアルオープンした 左下/名称は「遙か彼方、遠くはなれた島」[島流し]を意味する「遠島」から。島流しというネガティブなイメージにも思えるが、隠岐の場合は離島でありながら湧水に恵まれた豊かな土地だったため、後鳥羽上皇や後醍醐天皇など高貴な人々の配流の地となった

余計な装飾のないシンプルな部屋、壁一面の窓、その大きな額縁のような窓枠の向こうに広がる真っ青な海と隠岐の島々、行き交う船。右に掲げた写真は、2021年7月にリニューアルオープンしたホテル「Entô」の1日1組限定のスイートルーム「NEST SU」である。もちろんスイートルームだけでなく、館内のすべての部屋が約600万年前の火山噴火でできた島前カルデラの内湾に面しており、同様の絶景を心ゆくまで満喫することができる。この部屋でユッタリ過ごす時間は最高に贅沢だが、Entôはたんなるラグジュアリーホテルではない。隠岐ジオパークを巡る拠点施設としてのさまざまな機能が備わっているのだ。たとえば別館(Entô Annex NEST) 1階にある展示室「Geo Room Discover (ジオルーム デイスクーパー) (入場無料) では、隠岐島前・島後の大地の成り立ちと、それと結びついた島前3島の文化や芸能などを視覚的・感覚的に学ぶことができ、そのすぐ隣には、内湾の景観をバックに恐竜などの古生物の化石が展示されたフリースペース「Ge8 Lounge (ジオラウンジ)」がある。また、毎日16時から開催されて



島前・中ノ島(海士町)

ジオパークの拠点「Entô」ですごく極上のひととき

2021年、島前・中ノ島の玄関口、菱浦港のすぐそばにあらたな宿泊施設がオープンし、話題になっている。日本初のジオホテル、と銘打った「Entô」がそれだ。隠岐ジオパークの大地の物語を体感し、時を忘れてユッタリ過ごす、そんな宿泊体験を紹介したい。



上/1日1組限定のスイートルーム「NEST SU」。ベッドに横たわり窓を眺めていると、時折、静かな海上を船が行き交う 下/リニューアルオープンに際して新しく建てられた別館「Entô Annex NEST」

海の上に漂うように滞在する

TADAYOI 海士グランピング



TADAYOI
海士グランピング
海士町福井1425-3
TEL070-7581-8583
ama-tadayoi.jp

(右上から時計回り)島前の穏やかな内湾に面して立ち並ぶドーム型のグランピングテント。各テントには1棟ずつ、キッチンとシャワー、トイレのあるコンテナハウスがついている。「海上を漂うような気分」が味わえる。セミダブルベッドが3台、エキストラベッドが1台で最大4人まで泊まれる。何といても人気はバーベキュー。隠岐牛やカキなど、9割以上の食材を島内で仕入れているという。㈱FoundingBase観光事業部 海士町グループの米澤爽さん。神奈川県出身、大学4年生の時に海士町の大人の島留学制度を利用して観光協会で働きながら島に滞在。偶然、就職先の同社があらたに島で観光事業をスタートするタイミングだったことから、希望を出して「TADAYOI」の管理運営を担当することに。今年4月から中ノ島で暮らしている

もうひとつ、Entôのすぐ近くで隠岐の自然や地形を体感できる宿を紹介したい。全国各地でまちづくりプロジェクトを手掛ける㈱FoundingBaseが2023年5月にオープンした「TADAYOI」、内湾に面したドーム型のテントでユックリとくつろぐことができるグランピング施設だ。なるほど、これが「TADAYOI」の施設コンセプトなのか。聞けば、「テントのなかのベッドに寝転んで外を眺めると、まるで静かな海のうえを漂っているような感覚を味わえる」(管理運営を担う米澤爽さん(23歳))というのがネーミングの由来とか。そして、たとえば目の前の景観など「ただ、よい」

ものを大切にしようという自然への感謝の意も込められている、納得である。人気は島の山海の幸タプリのバーベキューや前浜でのSUPやクリアカヤック体験。テントサウナも楽しめるほか、数分歩けばプライベート感満載のレインボービーチもある。「今後は地域の事業者や住民の方々との連携を深めて、山登りや木登りなどのアクティビティ、野菜収穫や牛のエサやりなど、体験観光のコンテンツを充実させていく」と米澤さん。「TADAYOIに泊まることを通じて地域と交流し、島の生業や暮らしを体感する。そんな場にしていきたい」と話している。

Entô エントウ
海士町福井1375-1
TEL08514-2-1000
ento-oki.jp



上/古生物の化石などが展示されたフリースペース「Geo Lounge」 下/展示室「Geo Room Discover」には、隠岐の「大地の成り立ち」とつながる「独自の生態系」や「人の営み」をモチーフとしたオブジェが並ぶ。視覚的・感覚的に隠岐ジオパークの多様な魅力を知ることができる

これらのいわば、実際に隠岐諸島各地で大地の成り立ちや人々の営み、不思議な生態系を見てまわるための予習。ここで隠岐ジオパークについて学んでから島巡りをはじめれば、充実した旅になること間違いなしだ。

「Entô walk」(参加無料)に参加すれば、スタッフが周辺を案内しながら、島の自然や日々の営み、ジオパークのことなどについて話してくれる。

毎日開催されており、宿泊客でなくても自由に参加できる「Entô walk」。Entôスタッフがガイド役となって周辺を30分ほど散策する。スタッフや参加者によって散策のテーマはさまざま異なる。この日の担当は京都府出身の「ターン者」池内亮太さん(29歳)。菱浦港周辺を歩きながら、島の人たちの暮らしについて話し、お気に入りの絶景スポットなども案内してくれた



1 海岸に北方・南方・高山系まで 揃うミステリアスな植生分布

隠岐諸島の植生は非常に特殊で、九州や沖縄で見られる南方系のナゴランと北海道で見られる北方系のハマナス、ロシアのウスリーや朝鮮半島など大陸性のダルマガクといった植物が混在しているほか、高山植物として知られているイワカガミ(800~1000m)やシロウマアサツキ(2000m以上)が海岸付近に自生している。その秘密を解くカギは、隠岐が氷期と間氷期の海面の高さの変化で離島になったり、本土とつながったりを繰り返してきたことにある。

たとえば、寒さと乾燥に弱いスギは約2万年前の最終氷期には本州では減少したが、暖流の影響で比較的暖かく、適度な湿気もある陸続きの隠岐で生き延びたという。スギのほかにも氷期に逃避地としての隠岐諸島にきた動植物はたくさんあり、それらは温暖化で海面が上昇して本州との間の陸地が沈み、隠岐が離島となった後もそのまま定着した。また、氷期と比べて暖かくなった現在では本来、北方系の植物は南方系の植物が増えた影響で寒冷地・高地へと分布し衰退しているが、隠岐では今でも北方系と南方系の植



左/ナゴラン(ラン科) 右上/ハマナス(バラ科) 右下/多様な系統が混在する隠岐の昆虫標本

物が共存している。その理由は明らかになっていないが、隠岐の湿潤な気候と地形などの複合的な理由で、隠岐の植生分布は特殊なものになったと考えられている。おかげ

で生息する昆虫も高山系、南方系・北方系など幅広いものとなっている。

隠岐の不思議



2021年に完成した西郷港直結の隠岐ジオゲートウェイ内にある「隠岐自然館」。1階には観光案内所がある

「ジオパーク」とは？
 そもそも「ジオパーク」とは、地球の活動のことがよくわかる地質・地形や景観が大切に守られ、教育や持続可能な開発に活用されている地域のこと。現在、ユネスコ世界ジオパークには48カ国195カ所が認定されており、そのうち10カ所が日本にある。では、隠岐ジオパークにはどんな特徴があるのだろうか。(二社) 隠岐ジオパーク推進機構事務局長の野邊一寛さん(61歳)によれば、隠岐ジオパークのキーワードは「大地の成り立ち」「独自の生態系」「人の営み」の3つ。それらのつながりを学ぶには、隠岐島後の西郷港すぐそばにある隠岐自然館(隠岐ジオゲートウェイ2階)を訪れるといい。館内には多くの岩

山灰が火山活動による熱水で変質した緑色の凝灰岩②や2000万年前の地層から発見されたワニの背骨の化石③は、後の日本列島にあたる陸地と大陸の間に大きな湖ができた時代のもの。当時、このあたりがワニが暮らすような湖で、比較的暖かい気候だったことがわかる。その後、日本列島はさらに大陸から分離し、日本海が形成された。この時代の証拠となるのが、1600万年前の地層から

石や化石が展示されており、「大地の成り立ち」「独自の生態系」「人の営み」を学ぶことができる。隠岐の岩石・化石から日本列島と地球の歴史がわかる
 まず、かつて隠岐を含む日本列島が「超大陸パングア」の一部だったことを示すが島後北東部に分布する「隠岐片麻岩」①、地底の圧力と熱によってできた2億5000万年前の変成岩だ。地下深くで生成された岩石なので本来は見る事ができないが、隠岐はプレート活動と火山活動で隆起したため、地表で確認することができる。これが隠岐がジオパークたる所以のひとつだ。ちなみに、隠岐ではこの片麻岩が砂利として利用されており、いたる所で見られる。つぎに、「グリーンタフ」(火

島後(隠岐の島町)

2億5000万年の「大地の成り立ち」から「独自の生態系」「人の営み」を 解き明かす

ジオパークというと、どうしても特異な地形や地質による絶景に目がいきがちになるが、隠岐ジオパークのおもしろさは、思わずなぜ、と問いたくなるところにある。隠岐ならではの自然環境や文化、歴史、営みが、すべて大地の成り立ちと結びついていること。そこに「なぜ」を解くカギがある。

まずは大雑把に 隠岐諸島の 成り立ちを 知っておこう



火山が生んだ 現在の隠岐諸島の形



島後

隠岐諸島最大の島でほぼ円形。島前と同様に火山活動によってできた島。500m級の山々が連なり、そこから平地へといくつもの川が流れている。

島前

陥没した火山に海水が入り込んでできた3島全体がリング状に並ぶカルデラ地形をしており、西ノ島の焼火山が中央火口丘とされている。各島とも海岸まで急峻な斜面がつづくため稲作には不向きで、牛や馬の放牧地が多くみられる。

隠岐自然館

隠岐の島町中町目貫の四61
隠岐ジオゲートウェイ12階
TEL08512-2-1583
www.oki-geopark.jp/museum/

見つかった植物プランクトンの殻などからなる「珪質泥岩」④である。1000万年前の地層からはホタテ貝の化石⑤も見つかった。この時点では隠岐はまだ海の底だ。

そしてプレート活動によって隠岐は徐々に隆起をはじめ、600万年前、激しいアルカリ火山岩の活動によってついに島前と島後が海面に顔を出したのだ。島後の南、西、北側の海岸近くに多くみられる白っぽい「アルカリ流紋岩」⑥は、当時の噴火活動の痕跡である。

他方、島後の東海岸には400〜200万年前の噴火活動で流れ出した溶岩、玄武岩が分布しており、そのなかには上部マントルの成分を取り込んだ「マントルゼノリス」⑦がある。地球内部にあって本来は見られないはずの鉱物が地表で見られるため、隠岐を訪れた科学者が驚くそう。

最後に紹介するのが、隠岐諸島周辺で見つかったナウマンゾウの牙の化石⑧。この化石は隠岐が離島になったり本土となったりを繰り返している。地球が約10万年周期で氷期と間氷期を繰り返すのに合わせ、海面の高さが200mも変化したそう。2万年前は現在より海面が130m低く、本土と隠岐の間の水深が80mほどしかないことから陸つづきになっていたため、ナウマンゾウが隠岐側に移動したといわれている。

このように隠岐諸島は小さな島ながら、さまざまな条件が重なったおかげで地球の活動や日本海形成の歴史を示す多様な地質を有し、世界的にも珍しい岩石がそこかしこで見られる唯一無二のジオパークとなっているのだ。これらの地質・地形がそのまま、隠岐の「独自の生態系」や「人の営み」とつながっている。たとえば、なぜ隠岐の海岸には北海道から沖縄までの植物が生えているのか。なぜ隠岐には数多くの神社があり、全国各地のさまざまな神様が祀られているのか。隠岐にはなぜ天皇がふたりも流されたのか。ぜひこれらの「なぜ」のポイントをおさえてジオパークの島旅にトライしてみてください。

最後に紹介するのが、隠岐諸島周辺で見つかったナウマンゾウの牙の化石⑧。この化石は隠岐が離島になったり本土となったりを繰り返している。地球が約10万年周期で氷期と間氷期を繰り返すのに合わせ、海面の高さが200mも変化したそう。2万年前は現在より海面が

隠岐の不思議

2 隠岐の空港は火山活動の賜物?

隠岐世界ジオパーク空港は、島後の中心地からわずか3km、西郷港からも近く、実に良い場所にあるうえ、海際の標高の高い平地に造成されているため、小型ジェット機が就航可能な2000mの滑走路もある。この台地は約40万年前の火山噴

火でサラサラとした玄武岩質の溶岩がー帯に流れ形成されたそう。現在、隠岐と本土を小型ジェットの定期航路が運航しているのは、40万年前の火山活動のおかげというわけだ。



隠岐世界ジオパーク空港

3 なぜ後鳥羽上皇と後醍醐天皇は隠岐に流されたのか

後鳥羽上皇と後醍醐天皇、ふたりの皇族が遠島となったことで知られる隠岐。通常、遠島というと罪人が貧しい島に流されるイメージだが、隠岐の場合は事情が違う。討幕運動を起こした天皇なのでそう簡単には帰って来られないよう離島や陸の孤島が遠流の地とされたが、天皇を流すからには良い方角にしないと祟りが起こる、という

ことで当時の都であった奈良・京都から見て北西(吉兆をもたらす方角とされていた)に位置する隠岐が選ばれたとされている。また、隠岐が離島としては珍しく水が豊富で米作も行われており、生活水準が高かったことも大事な要因のひとつだったと思われる。



Entôの展示室「Geo Room Discover」にある後鳥羽上皇のオブジェ

4 高品質な「黒曜石」の産地として一目置かれていた隠岐

古事記(712年編纂)の国造り神話では隠岐は3番目に生まれた島とされている。これはすなわち、当時から隠岐は都から重要な島と認識されていたということだ。その理由は「黒曜石」にある。黒曜石といえば、鉄が伝わるまでの間、旧石器時代から縄文時代にかけて食器や狩りの道具の材料となった石。国内には100カ所ほど産地があったが、質はピンキリだったよう

だ。硬すぎても柔らかすぎてもダメで、石器用の黒曜石の主な産地はたった6カ所しかなかった。隠岐はそのひとつで、ガラス成分の多いアルカリ流紋岩の地質のおかげで高品質な黒曜石がよく採れたという。事実、3万年前から黒曜石の輸出を行っていた形跡があるほか、黒曜石を求めて多くの人が全国から隠岐にやってくるといういわれている。



隠岐産の高品質な黒曜石



上・右下/隠岐自然館内の様子
左下/(一社)隠岐ジオパーク推進機構事務局長の野邊さん。島後出身、松江工業高等専門学校で土木工学を学び、11年間にわたり大手ゼネコンで働いた後、故郷にUターン。「隠岐の島民自身が島々にある貴重な地域資源のことを知り、自分たちの島に誇りを持てるように」と世界ジオパーク認定に向けて尽力、隠岐ジオパーク教育・観光の基盤を築いてきた



隠岐ジオパークツアーデスクの拠点、海洋スポーツセンターがある塩の浜(都万地区)。隠岐諸島最大の砂浜で、湾内は100m先まで水深が浅く、小さな子どもでも安心して遊べる。また、センターの周辺はキャンプ場となっている



ガイドの齋藤正幸さんと石川樹さん
おすすめの乙女子海岸

(一社) 隠岐ジオパーク ツアーデスク

隠岐の島町津戸1537-1
海洋スポーツセンター内
Tel.08512-6-2050
www.okigeopark.com
洞窟カヤック(2時間)
大人7000円他、
隠岐アドベンチャーツアー
(1泊2日)大人4万9500円他
※詳細はHPへ



(右から) 迫力満点、スリリングな「洞窟カヤック」/ 山歩きがしたいなら、隠岐諸島最高峰の大満寺山(608m)の頂上を目指したり、日本では珍しい白いアルカリ流紋岩の海岸を歩いたりといったトレッキングツアーに参加しよう/ アドベンチャーツアーでの隠岐食材によるバーベキューの様子

洞窟カヤックやトレッキングなど ジオアクティビティに挑戦!!

隠岐諸島各所でジオパークならではのダイナミックな絶景を眺めるのもいいが、それだけではもったいない。マリンアクティビティやトレッキングでその大自然の只中に身を置き、思う存分遊んでみるのがオススメだ。

隠岐島後の南西部、塩の浜にある海洋スポーツセンターを拠点とする(一社)「隠岐ジオパークツアーデスク」では、島後の海と山を舞台としたさまざまなアクティビティやエコツアアを手掛けている。一番人気の「洞窟カヤック」はカヤックで外洋に出、島南部の神秘的な海岸洞窟を目指すマリンアクティビティ。数百万年前の火山活動で生まれた島が、長い時間をかけて日本海の荒波で削られてできた海食景観は迫力満点で、とくに100m以上の高さの断崖絶壁を間近に見ながら岩礁の合間を抜けていくのは隠岐ジオパークならではの体験だ。塩の浜か

ら外洋に出て日本海に沈む夕日を見に行く「サンセットカヤック」もいい。波穏やかな海上でユッタリしたいなら、湾内で楽しめるSUPや「砂浜カヤック」がオススメだ。
その他、隠岐ジオパークツアーデスクでは2022年から「アドベンチャーツアー」をはじめており、これが好評とのこと。キャンプ泊を軸として、カヤックやトレッキング、サイクリング、隠岐の豪華食材を使った料理体験など、ガイドがリクエストに応じてメニューを組み立ててくれるという。隠岐ジオパークのさまざまな面に触れることができそうだ。

隠岐ジオパークならではの 絶景スポット&名所ガイド

隠岐諸島各地には、8~11頁で取り上げた「大地の成り立ち」に由来する絶景スポットや名所が多数点在している。そのいくつかを厳選紹介!!



国賀海岸
〔西ノ島〕

4

隠岐を代表する景勝地。巨大なナイフで垂直に切り取ったような高さ257mの大絶壁「摩天崖」や海に大きくせり出した岩の架け橋「通天橋」などがあり、このあたりを総称して国賀海岸と呼んでいる。この写真は赤尾展望所からの景観だが、観光船で海側から観る国賀海岸も絶景と評判。なお、摩天崖や赤尾展望所の周辺では牛馬の放牧が行われている。



明屋海岸
〔中ノ島〕

5

海食崖や海食洞が約1kmにわたってつづく景勝地で、元は火山の噴火口だった場所。この噴火口から流れ出した溶岩が中ノ島に平地をもたらしたという。赤く見えるのは、スコリアという火山噴出物によるものだろう。目を転じると、屏風岩と呼ばれる奇岩もある。ある角度から見るとハートにくり抜かれたように見えることから、通称「ハート岩」としても人気のスポットだ。



赤壁
〔知夫里島〕

6

その名の通り、鮮やかな赤茶色の岩肌が露出した海食絶壁。もっとも高いところで海面から約200mあるという。噴火で飛び出した溶岩のしぶきに含まれる鉄分が高温のまま空気に触れて急速に酸化したことで、このような色になったという。まさに火山活動によって生み出された大地の鼓動を感じられる場所、一見の価値ありだ。

岩倉の乳房杉
〔島後〕

1



島後の最高峰である大満寺山の東麓に立つ、地元で神木として祀られている樹齢約800年の古杉。高さ30m、根まわりが約16mあり、幹の途中、地上10mくらいのところから24個の巨大な鍾乳石状の乳根が下がっているのが特徴。また、日本海側の湿った雪の重みに耐えられるよう、枝が上に向かって伸びている。これは約2万年前の最終氷期に逃避地として温暖湿潤な隠岐で生き延びた「真杉グループ」の特徴だという。

玉若酢命神社
〔島後〕

2



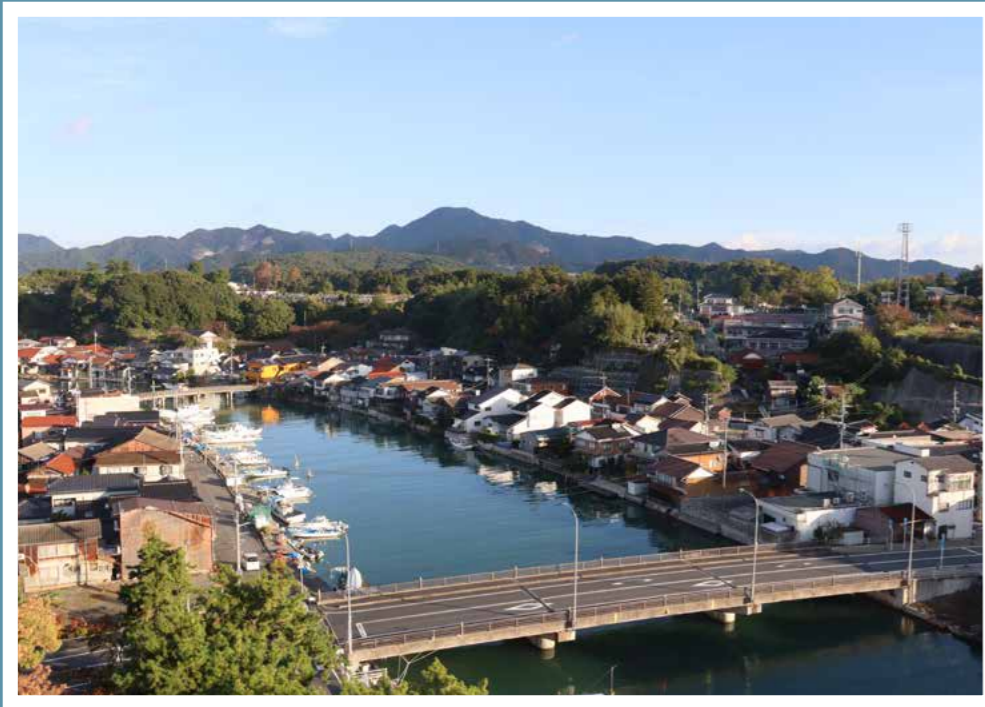
隠岐には神社が多い。社殿を持っている神社が島前・島後全体で150座以上、小さな祠なども入れるともっとあるという。隠岐造りの本殿があり、隠岐島後三大祭りのひとつ「御霊会風流(ごれいふりゅう)」が行われる玉若酢命神社はその代表格。敷地内には、樹齢2000年を超えるという巨大なご神木、八百杉がある。敷いてある砂利は、2億5000万年前に地底深くで生成された古い岩石「隠岐片麻岩」。

焼火神社
〔西ノ島〕

3



巨大な島前カルデラの中心部と外縁の一部から成る西ノ島。その南部にそびえる焼火山(452m)がカルデラの中央火口だといわれている。古くから航海安全の神として信仰の対象となり、1221年、後鳥羽上皇が隠岐に配流された際には、遭難しかけた一行に海からの御神光が道を示したという逸話も残っている。現在中腹には焼火神社があり、フェリーが山の前を通過するときには汽笛を鳴らすという。1732年に改築された社殿は隠岐最古。



隠岐ブラザホテル10階のレストランの窓から、八尾川と港町(左岸)、西町(右岸)を一望できる

「島後」町歩きのおすすめ

あらたにオープンした古民家宿を拠点に八尾川沿いの風情ある街並みと商店街「西町通り」を歩く

島後の玄関口である西郷港の近くに「西町通り」という小さな商店街がある。店の数は少なく、往時のにぎわいは失われているが、ぶらりと歩けば川沿いの風情ある街並みや地元馴染みの老舗、商店主たちの温かな笑顔に出会うことができる。そんな西町通りに新しく古民家ゲストハウス「Hito Naka」がオープンした。さっそく、この宿に泊まって西町通りを散策してみた。

商店街で「暮らす」ようにする

西郷港は火山噴火によってできた火口湾の奥の入江にあるため風も波も穏やかで、江戸時代には北前船の風待ち港として栄えたという。この港から、集落の中心部を流れる八尾川沿いに5分も歩けば西町通りに出る。通りの中ほどに、ウワサの「Hito Naka」がある。大正2年に建てられた古民家をフルリノベーションしたゲストハウスで、1972年創業の全35室、約200人のキャパを持つ隠岐

プラザホテルが運営している。なぜ老舗大型ホテルがゲストハウスを手掛けたのだろうか。「時代の変化とともに団体旅行の需要が減って個人旅行が主流となり、コロナ禍でさらに宿泊客が激減するなか、将来を見据えたリブランディングの一環で、個人旅行の受け皿となるあらたな宿をつくることにした」と話すのは同ホテルグループ総支配人の澤井拓郎さん(45歳)。「西町通りには観光客はほとんど来ないが、魅力的な店が多く、風情もある。町歩きのおすすめの宿をつくれればあらたな人の流れが

世界ジオパーク認定10周年 記念イベントで大盛り上がり!!

2023年9月9日(土)、隠岐が世界ジオパークの認定10周年を迎えた。これを機に(一社)隠岐ジオパーク推進機構が中心となって、島前・島後各地でさまざまなイベントやキャンペーン、隠岐の自然を体感しながら学べる特別プログラムなどを実施している。

皮切りは9日9日に開催された10周年記念シンポジウム。このシンポジウムは同機構の池田高世偉代表理事や来賓の丸山達也島根県知事による基調講演「SDGsからみた隠岐の未来」などが行われた。また、会場の隠岐島文化会館では地元の高校生が隠岐諸島のジオラマを使ったワークショップを行ったほか、地域の課題解決をテーマとしたカードゲームも実施。来場者も参加し楽しんでいただいていたという。さらに島の小学生から高校生を対象としたゲーミングイベントも開催、「マイクラフト」で作成したバーチャ

ル隠岐諸島を探検し、隠岐にちなんだクイズに答えるゲームや『マリオカート』のトーナメントで盛り上がったようだ。

また、同じ日から隠岐諸島では「リアル宝探し 大地の鼓動と4つの島」もはじまった。これは観光客が各島の絶景スポットなどを巡りながら質問に答えて謎を解き、キーワードを集めていくというイベントで、集めたキーワードをパンフレットに記載して各島の観光協会に提出すれば、豪華賞品の抽選に応募することができる。「隠岐の観光客のほとんどが1泊2日で1~2島回るのがせいぜい。こうしたイベントを通じて、ぜひ3泊、4泊して島前・島後全4島を巡ってもらえれば」と(一社)隠岐の島町観光協会の担当者。世界ジオパーク認定10周年を機に隠岐の認知度をどのように上げていくか、島をあげた取り組みが求められている。



上/「リアル宝探し 大地の鼓動と4つの島」は2024年2月29日(木)まで開催。岩石学者を目指す学生が隠岐諸島に眠る伝説の石「はじまりの石」を探すというストーリーにしたがって4島を巡り、キーワードを集める <https://huntersvillage.jp/quest/okiislands> 下/2023年10月22日(日)には、10周年記念イベントのひとつ「森フェス ヤッホー!」が開催。隠岐ジオパークに関する講演のほか、地元工務店による林業機械の操作体験、島根大学の学生たちによる島の植物をテーマとしたワークショップなどが行われ、島内の飲食店の屋台も多数出店、隠岐島文化会館は島の子どもたちや家族連れでにぎわった

ジオパークを軸に地域の課題解決を目指す 島根県立隠岐高等学校のジオパーク教育

島根県立隠岐高等学校は2015年から、ジオパークをテーマにした課題解決型のカリキュラムを取り入れている。生徒たちがみずからテーマを設定し、チームでフィールドワークなどを行っていくもので、1・2年生全員が「隠岐ジオパーク研究」を、3年次には選択科目で「隠岐ジオパーク探究」を受講できる。

たとえば23年の2年生が取り組む「隠岐の原始人体験プログラム」では、隠岐が良質な黒耀石の産出地であることに注目。島に体験観光が少ないという課題に対し、黒耀石を使った釣り針づくりや魚捌き体験、火おこし、船づくりなどを提案、小学生とその親を対象に体験型コンテンツの開発を行った。今後は地元の宿泊施設が行っているサバイバル体験やアウトドアブランドとのコラボ企画を展開していくという。

また、10月には毎年2年生全員が研修旅行に出掛け、関西の大学や隠岐高校と連携している

島外の企業でジオパーク研究の成果をプレゼンする。「大学や企業からは『研究データとして生かすには調査の仕方が甘い』『市場調査をすべきだ』といった厳しい指導もあり、生徒たちにとって刺激になっている」と隠岐高校魅力化コーディネーターの野邊みなもさん(31歳)は話す。早い時期に外の世界に触れ、力をつけた学生には「さらに島外での発表機会を積極的ににつけている」と山中秀行先生(42歳)。今年には日本ジオパークネットワークから「ジオパークを活用した教育の模範校」として表彰された。こうした経験によって「島の子どもたちは隠岐のジオパークを唯一無二の特徴として自覚し、故郷に誇りを持つようになる」という。それが着実に地域の担い手確保や活性化につながっていくはず、と関係者。ジオパーク教育に熱心に取り組んだ生徒たちの将来が楽しみだ。



上/口頭発表を行う2年生。「越境してプレゼンや説明を行う機会を得た生徒たちは大きく成長し、自分たちの地域に対する理解も深まる」と山中先生 下/昨年、白山手取川ジオパーク(石川県白山市)にて開催された「第12回日本ジオパーク全国大会」の際の1枚。左から山中秀行先生、野邊みなもさんと生徒たち



Bakery & cafe 木村屋

右上/店主の西尾文成さんと妻の恵美さん、ふたりとも島出身のUターン者 右下/2023年3月にオープンした「Bakery & cafe 木村屋」 左/木村屋自慢のパンの数々。一番人気は「こしあんドーナツ」

DATA Bakery & cafe 木村屋

隠岐の島町西町八尾の二12
Tel.08512-2-0072
営業10:00-17:00、水曜のみ11:00-14:00
(パンがなくなり次第終了)、日曜・祝日休



秀月堂の看板商品、サザエ最中とレモンケーキ 心温まるエピソードがある「愛の橋」※現在は通行止め。補修や架け替えが計画されている



Hito_Naka

DATA Hito_Naka 西町

隠岐の島町港町11-1
(隠岐プラザホテル)
Tel.08512-2-0111
oki plaza-hitonaka.com
1泊5500円～

DATA 京見屋分店

隠岐の島町西町八尾3-81 Tel.08512-2-0425
kyomiyabunten.com 営業10:00～19:00、火曜休



右/八尾川沿いに佇む古民家宿「Hito_Naka 西町」。川の向こう側にもう1軒の「Hito_Naka 港町」がある 中/西町で生まれ育ったという隠岐プラザホテルグループ総支配人の澤井さん。「今後は商店街の各店舗との連携をより深めていきたい」と意気込んでいる 左/築100年の古民家の趣きを生かした造りの居室。4名、2名、3名の計3部屋



京見屋分店



右上/京見屋分店の店内の様子。約70年前にお茶屋として創業後、日用品なども扱う町の荒物屋として地域で親しまれていたが、谷田さんが大幅リニューアル。現在では地元産品や贈り物、セレクト雑貨などの商品が充実している 左/カフェスペースには自然と人が集まってくる。中央が店主の谷田晃さん、一子さん。お客は左から島の飲食店「ジャックと豆の木」を営む正木翔さん、隠岐ジオパーク推進機構の高橋秀幸さん、隠岐ジオパークツアーデスクの石川樹さん、島初のブルワリー開業を目指す水間航多さん 右下/谷田さんは店の隣りの建物のリノベーションも順次すすめている。2023年3月からは、2階に広々としたワーキングスペースがプレオープン中。今後、ますます多様な人たちが集まる場になっていきそうだ

憩いと交流の場
「京見屋分店」

目指したのは宿泊客がただそこに泊まるだけでなく、「暮らす」ように地域ですごせる、そんな宿だ。宿泊客は港から川を渡ってすぐの隠岐プラザホテルの受付でカギを受け取り、八尾川を眺めながら5〜6分歩いて「Hito_Naka」に向かう。そして周辺で買い物をしたり、食事をしたり、商店主や住民と交流したりと思いいにす。こうしたコンセプトに惹かれて若者中心に宿泊客が増えているそう。

などが所狭しと並ぶセレクトショップで、大きな木のテーブルやカウンターが設えられたカフェスペースもある。「島へ。」2018年10月号隠岐特集にも登場したことのある店主の谷田晃さん(57歳)、一子さん(55歳)夫婦が経営するお店だ。相変わらず人懐っこい夫婦の笑顔がいい。以前からこの店はふたりの人柄に惹かれて自然と近所の人や移住者、観光客などが集まる場になっていたが、「そうした交流をもっと盛んにできれば」と2019年、店内の一角をカフェにリニューアルしたそう。以来、「より気軽に立ち寄れるようになったからか、移住間もない人が島の暮らしの事情を聞きに来たり、島民のおしゃべりを楽しみに来るが増えた」と谷田さん。事実、取材中には島の飲食店「ジャックと豆の木」を営む正木翔さん(34歳)や島初のブルワリー開業を目指す水間航多さん(35歳)といったIターン者、(社)隠岐ジオパークツアーデスク(15頁)でガイドを務める石川樹さん(35歳)など、島の同世代の若者たちがつぎつぎと集まりビール片手に談笑をはじめた。実に愉快な仲間たちの集まりだ。「この島をもっと元気にするにはどうしたらいいか」が会話の中心になる

「愛の橋」を眺めながら
八尾川の風情を堪能

京見屋分店でおしゃべりを楽しんで後は、八尾川橋からあらためて八尾川を眺めてみた。川沿いに家々が立ち並び、ところどころに小ぶりの漁船が係留されていて風情タップリである。遠くには「愛の橋」と呼ばれる小さな橋も見える。その呼び名の由来はこうだ。何でもこの川には昭和初期まではふたつしか橋がなく、一部には遠回りして通学する子どもたちもいた。それを不憫に思った金物店の店主が私財を投じて石橋を建造、店主の「汝の隣人を愛せよ」という信条から「愛の橋」と名づけられたという。人情あふれる西町通りらしいエピソードだ。

老舗パン屋がはじめた
ベーカリー&カフェ

宿まで戻る道すがら、商店街をブラついて買い物することに。まずは翌朝の朝食を調達しようと地元馴染みのパン屋「Bakery & cafe 木村屋」へ。木村屋は長らく、島内のスーパーや商店向けにパンを製造し卸してきたが、23年3月にみずから店舗を構えたという。「あらたな商売の軸として店舗での直売を検討

していた折、コロナ禍がはじまってしまった。が、これを新しいことに挑戦する好機と捉えて実店舗を開くことにした」と4代目の西尾文成さん(41歳)。今も卸しが主軸だが、父母や妻の恵美さんと力を合わせて店舗販売と両立させているそう。店頭にはカレーパンやあんドーナツなどの定番からハンバーガーまでイロイロなパンがズラリ。昼時には近隣で働く人たちがひっきりなしに訪れるとか。オープンからまだ数カ月ながら、すでに馴染み客がついていよう。道すがら、パン以外に老舗和菓子店の秀月堂では地元銘菓の「さざえ最中」を、毛利酒店では晩酌用に地酒「隠岐誉」を購入する。その途中で気になったのが鮮魚店「魚安」だ。先ほどの京見屋分店で居合わせたお客さん情報によれば、この店のアジやキスなどの干物は絶品とのこと。西町通りや港周辺には魅力的な飲食店がいくつもあがるが、「Hito_Naka」の供用キッチンで干物を焼いて酒の肴にするというのもよさそう。古民家ゲストハウス「Hito_Naka」を拠点とした西町通りの町歩き。ここで紹介した店はほんの一部なので、ぜひ実際に現地に足を運んであたりをじっくり散策してみよう。

行政主導の島の魅力化政策が奏功!! たとえば、2300人の海士町の人口の1割以上が移住者に!!

「大人の島留学」がヒットし島前3島に
20代、30代の「お試し移住者」が急増!!

近年、中ノ島(海士町)、西ノ島(西ノ島町)、知夫里島(知夫村)の島前3島にU・イーターナーが増えている。移住者のなかには、島の生活インフラや地場産業の担い手となったり、伝統工芸を引き継いだりと、今では島の暮らしと営みの維持に欠かせない存在となっている者もいる。さっそく、彼らの奮闘ぶりを紹介してみたい。



大阪府出身。長らく兵庫県で暮らし、2015年に地域おこし協力隊の制度で海士町に移住した島根さん

海士町福井1367-1
営業(カフェ)9:00-17:00、不定休
www.ama-kura.com/ento-oki.jp

島のほけんしつ 蔵(kura)
島の人たちのウェルネスを支えつづける



ケアやカウンセリングの後はお茶を飲みながらリラックスタイム、といったことが多かったため、2021年からは本格的にカフェとしても営業。店内ではクロモジやヒノキの精油、フローラルウォーター、ハーブティーなどのオリジナル商品も販売している

行政主導の産業振興策や隠岐島前教育魅力化プロジェクトなどの教育振興策が奏功し、近年では「大人の島留学制度」(左頁カコミ記事参照)などが充実し、移住者が増えつづけている海士町。いまや約2300人の人口のうち、1割以上を移住者が占めているという。新しいことにチャレンジする若者たちが集まり活気に満ちているが、その一方で都会と島の環境のギャップに苦しんだり、人間関係に疲れが重なったり、うまくいかなくて落ち込んだりと、悩みを抱え心身の調子を崩してしまう人もいる。「そうした人たちを支える存在でありたい」と話すのは「島のほけんしつ 蔵」の島根輝美さんだ。

島根さんは長年にわたり中国伝統の中医学やアロマセラピー、解剖生理学などを学んできたセラピスト。2015年に地域おこし協力隊制度を活用して島に移住し、ケアルーム「島のほけんしつ 蔵」を開いて以来、島の診療所の看護師とも連携をとりながら悩める人たちの心と体

島前の行政の挑戦!!——「大人の島留学制度」
お試し移住で若者を島に
呼び込み滞在人口、移住者増へ

移住者の多い海士町が2020年にはじめた「大人の島留学制度」が島前地域全体に広がり、さまざまな活気を生んでいる。この制度はいわば、20~35歳を対象とした「就労型のお試し移住制度」。3カ月から1年までの滞在期間、大学生や社会人の留学生たちが島の基幹産業である漁業や畜産業、農業などを中心とした仕事に従事しながら島暮らしを体験する。(一財)島前ふるさと魅力化財団が事務局となり、島前3自治体(西ノ島町・海士町・知夫村)と連携しながら数多くの若者を受け入れてきた。

島内の各事業所へのマッチングは(一財)島前ふるさと魅力化財団が担っており、受け入れの際のサポートや島留学生たちへの定期的な研修プログラムなど、滞在中の継続的な支援も行っている。留学生の若者たちがさまざまな生業に携わっている

おかげで地元では「人手不足の解消につながっている」と好評だ。海士町教育委員会の濱中香理さん(47歳)によれば、2023年は

すでに約104人の受け入れがあり、その約8割が女性。「年配の方を中心とした岩ガキの作業場に若い女性に加わって雰囲気がガラリと変わるなど、島の事業者にとっても刺激になっている」という。また、地域活動を積極的に展開している留学生もいる。たとえば海士町教育委員会・伝承郷係として8月から働く橋川佳依さん(23歳)は遊休施設となっていた海士町民具展示館のあらたな活用を見出そうと、映画上映会を実施。10月末には伝統芸能の島前神楽の体験会を行い、50名ほどが集まり好評だったそうだ。「就職でも転職でもない『お試し』の選択肢ができたことで、若者たちにとって移住へのハードルが一気に下がっている」と濱中さん。事実、この数年、大人の島留学制度がキッカケで島に移住し、役場や観光業、一次産業、製造業など島の事業所で継続して働く若者が増えているそうだ。海士町が目標に掲げる「還流」人口の促進が島の活力を生み出し、移住者増につながっているのだ。



(上から)大人の島留学生たちとコミュニケーションを取り、それぞれの活動を支えている海士町教育委員会の濱中さんと、制度を利用して現在、3カ月ほど島に滞在している橋川さん/橋川さんはほとんど使われていなかった「海士町民具展示館」で島前神楽の体験会などを企画、実施するなど、地域のにぎわいづくりに挑戦中



(右から)カフェメニューでは、季節や天気にあわせて「魔女の気まぐれブレンドハーブティー」が人気。クッキーつきで800円/「島のほけんしつ 蔵」の外観。その名の通り、空き家となっていた蔵を改修した建物(手前)を利用。奥には精油などの商品開発を行うためのラボやケアルーム、フリースペースもある/フリースペースはワークショップやワーキングなどに利用されている。予約がないときは出入り自由、島の高校生たちが学校帰りに利用することも

の調子を調えるためのアロマセラピーなどによるホリスティックケア(※)を実施してきた。今では「移住者の若者たちだけでなく、高齢で薬に頼りすぎたり、島外の病院に通うのが難しく不安を抱えていたりする島民なども多数、相談に訪れる」という。こうした相談者のケアにおいて島根さんがもっとも大事にしているのは「話を聞く」と。 「腰の痛みや体のダルさをフィジカルな施術で緩和するだけでは、精神面での不調の原因は残ったまま。一時的にラクになっても結局また調子を崩してしまう」からだ。そこで、まずは30分ほど相談者の話を聞き、心のなかでくすぶっている思いや辛いことなどを吐き出す手伝いをしたうえで、具体的なケアやトリートメントメニューをきめていく。このホリスティックケアのおかげで昔からの島民や移住者、ときには観光客からも「心身の健康を取り戻せた」と喜びの声が上がっている。地域おこし協力隊の3年間の任期を終えた後には「いまや蔵は島の生活に必要な存在になっている。ぜひつづけてほしい」といった声もあったそうだ。嶋根さんは「これからも引きつづき、島の人々の心と体の健康を支えたい」と意欲を燃やしている。

※ ホリスティックケア……体だけでなく、人の心や感情、気の流れなども含めた全人的な視点で行うケア。

島前の行政の挑戦!!——「西ノ島町コミュニティ図書館いかあ屋」

オープンから約4年で来館者10万人
島民の憩いの場として定着した図書館

「いかあ屋」は2018年7月にオープンした西ノ島初の図書館だ。その特徴は何といても、館内に多目的室や休憩室、学習室、キッチン、キッズスペースなどが設けられていること。西ノ島町コミュニティ図書館いかあ屋を育てる会会長の松浦道仁さん（71歳）によれば「計画段階で1年間かけて行政と住民、学生たちとで『地域が真に必要な施設』について議論を重ね、本の貸し出しだけでなく公民館機能を付加することになった」という。これが島民たちに好評で、オープンから約4年で10万人以上の来館を記録、老若男女を問わず島民たちの憩いの場となっている。「島を出た若者たちが里帰りした際、『自分が今、住んでいる地域にもこういう場がほしい』とってくれる、島前のほかの島々からわざわざ図書館に来てくれる人がいたりするのがうれしい」と松浦さん。子育て世代のU・Iターンの促進にも着実につながりそうだ。



上/図書館の外観。「いかあや」は島の方言で「いこうよ」の意。学童保育施設も隣接している 左下/西ノ島町コミュニティ図書館いかあ屋を育てる会会長の松浦道仁さんは、(一社)西ノ島町観光協会の会長も務めている 右下/現在の蔵書は4万5000冊。蔵書量は年々増えているが、それ以上にユッタリしたスペースをとってすごしやすい空間づくりを心掛けているという

西ノ島町浦郷67-8
08514-2-2422
<https://nishinoshimalib.jp/>

島前の行政の挑戦!!——「西ノ島町テレワークオフィス」

自然豊かな西ノ島に
テレワーク拠点が誕生

コロナ禍で全国的にテレワークが広がり、サテライトオフィスのニーズが高まるなか、西ノ島町も企業誘致に注力。2023年4月に浦郷地区の遊休施設(福祉施設)を活用して「西ノ島町テレワークオフィス」をスタートした。1階はコワーキングスペース(使用料は1日400円、島民は利用無料)、2階には4部屋のサテライトオフィスがある。「自然豊かで静かな環境で仕事はかどること間違いナシ」と西ノ島町産業振興課の松本寛海さん。「サテライトオフィスをお探しの企業はぜひご一報を」と呼びかけている。



窓の外に絶景が広がるサテライトオフィス

西ノ島町浦郷544-15 Tel.08514-6-2420



右/店長の小山亜理沙さん、瑛司さん夫婦。亜理沙さんはもとは千葉県で生物の教師をしていたが、海士町での教育改革の話聞いて隠岐島前高校の教師枠に応募、これが移住のキッカケに。西ノ島に居を落ち着けてからはさまざまな生業に携わった末、現役プログラマーの瑛司さんとともに海月堂をオープン 右上/カフェと物販スペース。島のお母さんたちのほか、カップルがデートで訪れたり、島外から仕事で来たビジネスマンがリモートワークに使用したりすることも 中上/中村美穂さんが手掛ける中村古道具屋。島民から使わなくなった食器や古道具を寄付してもらい、安価に販売している 左上/第1・3金曜日は18時半から殿西聡人さんがバーテンダーを務める「Cocktail Bar TONNOZ」がオープン。島にはバーがないので島民や移住者も大喜び

西ノ島
西ノ島町

あそびとくらしの店 海月堂
島民の需要に応え、島民の挑戦を後押しするユニークな複合施設



2023年3月、島内にある廃校舎内の複数の教室を使ってオープンした「あそびとくらしの店 海月堂」は、とてもユニークな複合施設である。メインはカフェなのだが、キッズスペースや物販スペース、古道具店、3Dプリンターのあるデジタル工作室など、実にさまざまな機能が備わっているのだ。店長の小山亜理沙さん(35歳)によれば「地域の困り事解消に役立ちたい」と考えた結果、「こうなった」という。たとえば、西ノ島の玄関口の別府港付近にはノンビリと休憩できるカフェやフリースペースなどがない。「地域のお母さんたちはもちろん、西ノ島には島前唯一の病院(隠岐島前病院)があるので、お隣りの中ノ島や知夫里島から通院してくる人たちにとってもそれが長年不便だった」という。また、島内にはお世話になった人や子どもへのプレゼントを購入できる店も少ない。そこで小山さんは書籍や玩具、雑貨などを仕入れてカフェの一角にその販売スペースをつくり、子どもが伸び伸びと遊べてお母さんもコーヒーなどを飲みながら一息つけるキッズスペースをつくったのだ。「島にはこれといったお土産物がない」という課題に対しては、夫の小山瑛司さん(38歳)

が大活躍。プログラマーとしてリモートワークをしている強みを生かし、さまざまなデジタル工作機で島の絶景スポットの地形をモチーフにしたライトやコースターなどを商品開発、店舗で販売しているという。さらに、小山さんは「島民が気軽に島で小さなビジネスにチャレンジできるように、海月堂をチャレンジできるよう、海月堂をチャレンジショップ的に活かしてもらおう」取り組みもスタート。すでに「大人の島留学・島体験」を機に島に移住した中村美穂さん(24歳)が廃校舎内の土間を利用して「中村古道具屋」を開いたり、同制度で島でインターンをしている殿西聡人さん(25歳)がバーテンダーの経験を生かして月2回、海月堂でバーを開いたり、さまざまな挑戦が生まれている。オープンから数カ月、すでに島民にとっても移住者にとっても大事な場になっていようだ。



広々としたキッズスペースは大人気

知夫里島 知夫村

島の畜産農家

「島まるごと放牧地」での畜産業に就く移住者が急増!!



隠岐諸島でもっとも小さい有人島、知夫里島。昔から畜産業（繁殖牛畜産）が盛んで、現在、島内には約20軒の畜産農家が人口とほぼ同数の約600頭の牛を「島まるごと放牧地」といわれる環境で飼育している。そのひとり、稲澤義治さん（42歳）は約5年前に家族と一緒に地域おこし協力隊として島にやって来た。「天然の牧場で牛たちがノビノビとすごしている様子をひと目で気に入って、畜産農家の元でこの島ならではの牛飼いの仕事を学んだ」そうだ。1年後には離農する畜産農家から3頭の牛を購入して独立、今では約20頭の牛を飼っている。稲澤さんによれば、知夫里島の畜産業は放牧が基本。「ある程度、自然に任せることで牧草

のコストなどを抑えることができ、牛もストレスなく伸び伸び育つ」という。事実、知夫里島で生まれ育った牛は全国の肥育農家から「知夫の牛は元気で足腰が強くて病気になるにくいしよく食べる」と評判だとか。ただ、これまで村をあげてそうした強みを発信する動きはなかったそうだ。現在、牛の市況が落ち込んでいることもあり、島の畜産農家の間では「知夫牛」のブランド化を目指そうという話も持ち上がっている。「知夫の牛飼いは40歳前後の若手が多く、ここ数年で移住して就農する人も増えているので、一丸となって島の畜産業を盛り上げていきたい」と稲澤さんは意気込んでいる。今後の動きに期待大だ。



上/知夫里島の牛飼いのひとり、稲澤義治さんと妻の千夏さん（40歳）。ふたりの出会いは小笠原諸島。千夏さんは夫を手伝うかたわら、島の菓子屋「めにーでーる」を営んでいる（29頁参照） 下/天然の牧場での放牧の様子。牛たちは実にノンビリ気ままに過ごしている



右下/初代当主、加藤唐山さんの妻、洋子さん（右）と焼火窯後継者のひとり、伴田さつきさん 右上/生前の加藤唐山さんの作陶の様子。加藤夫婦はふたりとも岐阜県多治見市の美濃焼の窯元に生まれた。長らく東京や名古屋などで暮らした後、隠岐の自然に惹かれて西ノ島に移住し、焼火窯を開いた 中上/加藤唐山の作品。「唐黒」や「緑青」など、島の自然素材を用いたオリジナル釉薬を開発し使用 左上/伴田さんが手掛けたマグカップなどの日常雑器。島内外の飲食店などからオーダーを受けて納めているほか、陶芸と染め物の体験も手掛けている 左下/洋さんが生み出した風流染め（写真はストール）。島の土だけを使って染めているとは思えない鮮やかな色合いだ



西ノ島 西ノ島町

焼火窯

島の伝統工芸の技術をふたりの若者が継承へ



西ノ島南部にそびえ、今も航海安全の守護神として信仰を集める焼火山。その麓にある「焼火窯」は、1998年に初代当主の加藤唐山さんが開窯した島唯一の窯元だ。特色は「島の赤土で素地をつくり、樹木や海藻から釉薬をつくるなど地元素材にこだわった焼き物」で、2010年には島根県ふるさと伝統工芸品に指定された。そして、この窯元のもうひとつの逸品が「風流染め」。これは唐山さんの妻、洋子さんが焼き物と同じ赤土で布を染め上げ、色を定着させるために海で洗い上げる染め物である。

これらふたつの伝統工芸品の技術を引き継ぐと奮闘する若者たちがいる。伴田さつきさん（33歳）と池田八重子さん（41歳）だ。ふたりがその道を歩みはじめたのは約6年前、西ノ島町が窯元の後継者となる人材として地域おこし協力隊を募集していたのを見つけたことがきっかけ。「私は小さい頃からモノづくりが好きで、大学卒業後はランドセルメーカーに就職したが、分業で一つひとつの部品づくりには携われないのがもつたりなかった」と伴田さん。「いつか素材を自分で選び、自分の手でモノをつくり上げたいと考えていたので、思い切って挑戦

することをした」と話す。窯業は未経験だったが「先生がイチから地域の素材を探し、試行錯誤してご自身の作陶スタイルを築き上げてきたことに感銘を受け、ぜひ自分もその道を歩みたいと直感した」そうだ。

こうして、2017年に採用がきまってから、伴田さんは日々、師匠に教えを乞い、地域おこし協力隊の任期を終えた後も島に残って作陶に励んできた。が、そんな折に師匠が大病を患い、今年の夏には帰らぬ人となってしまった。「まだまだ教わりたいたくさんあり不安もある」としながらも「先生が生み出したオリジナルの釉薬を使って隠岐の自然を表現で



土の隠場（オレイク）など、島産の土を採取し、4種類の色（黒、赤、黄、白）をブレンドして染め物にしている

技術と亡き師匠の魂が彼女たちのなかで息づき、開花していくことを祈りたい。

島グルメガイド



知夫里島
(知夫村)

Chez SAWA
シェサワ



老舗から新店まで、島後・島前の山海の幸を味わえる味処を厳選ガイド!!

季節や天候、漁獲などに応じて、Chez SAWAのその日のメニューは朝きまる。こちらは10月のある日のフルコースより、「ぎたろう軍鶏の薫香」と「マダイの白ワイン蒸し」

ここでしか味わえない
極上のフルコース

「食材を育てるところからお客さんに食べてもらうところまで、全部を手掛けたい」。Chez SAWAは、オーナーの岡田紗和さん(27歳)とシェフの里野モミイチさん(54歳)のそんな思いが込められたレストランだ。魚屋がない島で漁師に直談判し、知る人ぞ知る「信州ぎたろう軍鶏」由来の地鶏をみずから飼育し、野菜やハーブはほぼすべて自家農園で栽培する。ふたりでそうやって調達した食材を里野さんが丁寧に調理して極上の一皿に仕上げている。2022年10月のオープン以降、そのまさにここでしか味わえないフルコースを求めて、島民はもろろんのこと島前・島後の島々や本土からも数多くの人々がChez SAWAを訪ねている。隠岐諸島を旅するならば、ぜひとも立ち寄ってほしい名店だ。

DATA Chez SAWA

知夫村仁夫2293
050-8885-0767
営業11:30-14:30 18:00-21:30、不定休
※ 完全予約制(前日まで)
ランチ3300円、4300円/
ディナー4300円、6000円、9300円



(右から)オーナーの岡田紗和さんとシェフの里野モミイチさん。岡田さんが抱いているのは信州の「ぎたろう軍鶏」を種鶏として開発した地鶏「知夫軍鶏」。現在のところ採卵が主だが、将来的には食肉利用を目指している/自家農園「いただきファーム」。海風が直接あたらないよう、樹々に囲まれた場所で野菜やハーブを育てている/海を臨む高台に佇むChez SAWA。いずれは隣接する納屋をリノベーションして宿泊業をはじめることも視野に入れているという

西ノ島
(西ノ島町)

この海は
ひろし



DATA この海はひろし

西ノ島町浦郷544-38
090-7540-0547
<https://ya5r501.gorp.jp/>
営業11:00-14:00、不定休



西ノ島でうまい魚が
食べたかったらここ!!

右/自慢の海鮮丼(2000円)
左/扇谷博志さん(54歳)。「この海はひろし」は実は魚屋で、鮮魚販売のかたわら海鮮丼やテイクアウトの弁当などを提供している

西ノ島の浦郷港の波止場にある西ノ島町観光交流センター内に、「西ノ島でうまい魚が食べたかったらここ!!」といったくなる店がある。その名も「この海はひろし」。店主の扇谷博志さん(54歳)は島で四半世紀以上にわたって「鮭あいら」を営んできたベテランの板前で、島の魚市場での入札権を持っていることが大きな強みだ。「料理人の目利きで旬の鮮魚を仕入れられるので、最高の状態でお客様に提供できる」と胸を張る。メニューは海鮮丼一択、ぜひご賞味あれ。

島後の西郷港周辺には
魅力的な飲食店がいっぱい!!



隠岐諸島にはここで紹介したほかに、魅力的な味処がたくさんある。とくに島後の西郷港周辺には居酒屋や地元馴染みの定食屋、名物「島後ちゃんぽん」の名店など飲食店が集中しているので、ぜひいろいろと巡ってみてほしい。写真はレトロな定食屋「更科」(隠岐の島町中町目貫の四41-1、08512-2-0037)の一番人気「カツ丼」。ボリューム満点でおいしい。

島後
(隠岐の島町)
隠岐
プラザホテル

DATA
隠岐プラザホテル
隠岐の島町港町11-1
0120-313-397
<https://okiplaza.com/>



しまどれ海鮮会席の料理の一例

老舗ホテルの展望レストランで
味わう海鮮会席

島後でもっとも大きな老舗ホテル、隠岐プラザホテルに宿泊すると、夕飯には近海の鮮魚を中心とした「しまどれ海鮮会席」が味わえる。季節の前菜5種に旬のお造り4種、ヒオウギ貝のサラダージュ、山陰ポークと旬野菜の蒸籠蒸し、マダイの蛇籠揚げ、海鮮の炊き込みご飯など全11品と盛りだくさんの内容だ。最上階(10階)の展望レストランからの景観も素晴らしい。一見の価値ありだ。



(右から)クミンが効いたスパイシーな「喫茶店のポークカレー」(800円)。「お客さんは島民の方が7割ほどで、徐々に常連さんが増えてきているほか、展示やワークショップ、ライブなどのイベントの場としても利用されている」と店主の眞壁海斗さん(24歳)。いずれは夜のパー営業も視野に入れているそうだ 左上/店舗概観。2階は宿泊施設「ホテルのち」



島後
(隠岐の島町)
賑わいづくり
喫茶 ゆらぎ

港近くの洒落たカフェで
ほっと息

2023年3月、島後の西郷港直通の隠岐ジオゲートウェイのすぐ裏手にオープンしたカフェ。その立地から、船を待つ間に一息つくのもよし、7〜17時の通し営業なので朝食を取ったり、港周辺を散歩する際の休憩にもピッタリ、実に使い勝手の良い店だ。また、ベトナムのサンドイッチ「バインミー」や隠岐のスルメイカの肝醬油漬けに島後の平飼鶏の卵を載せた「寒シメメ漬け丼」、ポークカレーなど、いずれも軽食ながら、島後ならではのメニューも含まれているのがい。

DATA
賑わいづくり喫茶 ゆらぎ
隠岐の島町中町目貫の四 9-6
<https://www.okiyuragi.com>
(合同会社隠岐ゆらぎHP)
営業7:00-17:00、水曜休



右/メインの隠岐牛ロースの鉄板焼き。添えられているのは、サツマイモとこじょうゆ味噌 左上/メイン料理は店内に設置された大きな鉄板で焼き上げる 左中/海士町のブランド牡蠣「岩牡蠣春香」 左下/マダイの「隠岐誉」酒蒸し



中ノ島
(海士町)

Entô
Dining

DATA

Entô Dining
隠岐郡海士町福井1375-1
08514-2-1000
<https://ento-oki.jp/>

ジオホテルで堪能!!
地産地消コースデザイナー

4頁で取り上げた「Entô」内にある「Entô Dining」のこだわりは、使用する食材の大半を島内で調達し、島内消費を心にかけていること。岩ガキ、サザエ、白イカ、ホンダワラ、アカバ(カンパチ)、マダイ、隠岐牛、こじょうゆ味噌、ふくぎ茶、崎みかんなど、季節ごとに旬の食材を取り入れたコース料理は絶品だ。窓の外に広がる島前カルデラの内湾を眺めながら、腰を落ち着けてジックリと島の山海の幸を味わう、それが海士町での最高のフルコース。

藤田寛子さん
西ノ島町産業振興課
プロジェクト係
地域活性化起業人



ぐるなび「地域活性化起業人」が
西ノ島の郷土食継承や食の情報発信に尽力

全国の飲食店情報を集約したウェブサイトで見られる(株)ぐるなびは、2021年から総務省の企業人材派遣制度を活用し、社員を「地域活性化起業人」として全国各地に派遣、地方自治体と連携して地域の食文化振興や観光振興などに取り組んでいる。このプロジェクトで、22年6月から島前の西ノ島に赴任している藤田寛子さん(31歳)の活動を紹介したい。

現在、藤田さんがすすめているのは、西ノ島における「漁業の活性化と郷土食の継承」を目的としたあらたな商品開発だ。古くから地元で親しまれてきた万能調味料「なめみそ」(こうじ、みりん、薄口醤油、砂糖などから作られており、各家庭でレシピが多少異なる)に着目し、3人のシェフがそれぞれメニューを考案、2023年の8

月30・31日(水・木)の「新メニュー試作会」でそのレシピを西ノ島町食生活改善推進協議会の面々に伝えた。そして11月3日(金)には町内のイベント「ギョギョギョ魚フェスタ」でその新メニューが島民たちにお披露目された。メニューは「なめみそのとろけるプリン」「西ノ島特製なめみそ焼売」「なめみそライスコロッケ」の3つ。どのレシピも調理工程はカンタンながら味は本格的で、来場者に好評だったようだ。「今後はこの新メニューのレシピが島内の家庭に広がり、あらためて『なめみそ』の魅力が伝わっていくことを期待するとともに、次年度には『なめみそ』を活用したお土産品開発や島外への魅力発信にも取り組みたい」と藤田さん。期待のかかる新メニューの公開となった。



(上から)「新メニュー試作会」でシェフからレシピを教わる西ノ島町食生活改善推進協議会のメンバーら/新メニューのひとつ、「なめみそライスコロッケ」



キンニャモニャの「しゃもじ」がお菓子に 海士のサブレー あましゃもじ

隠岐民謡のキンニャモニャ踊りに欠かせない「しゃもじ」の実寸大のお菓子が誕生!!「海士のサブレー あましゃもじ」は「島外のお土産をもっとバラエティ豊かにしたい」と大野祥子さん(43歳)が開発した商品で、隠岐ユネスコ世界ジオパークの認定商品。味は昔から海士町の家庭で作られてきた調味料「こじょうゆ味噌(なめ味噌)」を使っているため甘じょっぱい。贈ってうれしい、もらって楽しいサブレーだ。

海士のサブレー あましゃもじ 価格1480円

amanola PROJECT 隠岐郡海士町海士1839-3
amanolalala@gmail.com



規格外の「さきみかん」を使った人気商品 さきみかんジャム

海士町最南端の崎地区で栽培される「さきみかん」は薄皮で身がギッシリ、酸味と甘みのバランスが絶妙な昔懐かしい味のみかん。半世紀前には栽培農家の縮小や高齢化で消滅の危機にあったが、2013年、JAしまねと海士町役場が「さきみかん再生プロジェクト」を始動。1ターンで就農した2人の男性の努力が実り、例年約10トンの収穫が得られるまでに。この規格外のさきみかんを買い取り、手づくりでジャムをつくっているのが大海切羽さん。みかんそのものの味わいが詰まった逸品に。味はプレーン、シナモン、ブランデー、ふくぎ(クロモジ)の4種類、いろいろ試してみたい。隠岐ユネスコ世界ジオパークの認定商品。

さきみかんジャム 420g² 価格580円

崎カフェ 隠岐郡海士町崎1538-1
しゃん山(取り扱い店)
https://shanyama.stores.jp/items/5ff4191f72eb46438a17a4c0

パティシエが手掛ける島のスイーツ 島とうふどーなっつ



約5年前に知夫里島に移住した稲澤千夏さんは、本土で12年にわたりパティシエを経験したお菓子づくりのプロフェッショナル。知人・友人に頼まれてお祝いのケーキを作ったり、島内のイベントで手作りのシュークリームを販売したりしたところ、島にはケーキ屋さんや駄菓子屋さんがないこともあって大好評に。これに大きなニーズを感じて自宅の一部を調理工場に改修し、「MANY DALE(めにーでーる)」の屋号で保健所の許可をもらい予約注文のケーキ製造・販売業に乗り出したそう。そんな稲澤さんがコロナ禍で「島の人たちが気軽に茶菓子やおやつとして楽しめる島のお菓子をつくりたい」と商品開発したのが「島とうふどーなっつ」。これは海士町産の島とうふと黒糖を原料に、米油で丁寧に手揚げした稲澤さんイチオシの逸品。ザクとした歯ごたえとココのある味わいをお楽しみいただきたい。胃にもたれず、子どもからお年寄りまで安心して食べられるのもうれしい。その他、レモンケーキやオートミールのおやつミックスなどもやさしい味わいでオススメだ。

島とうふどーなっつ 8本入り 価格950円

MANY DALE(めにーでーる) 隠岐郡知夫村575 Tel.080-7752-2620 https://manydale.shop-pro.jp/



隠岐酒造の最高級品 隠岐誉 純米大吟醸斗瓶囲い

隠岐諸島唯一の蔵元である隠岐酒造。離島としては珍しい湧水を仕込み水とし、「酒質の向上に天上なし」を合言葉に50年以上酒造りをつづけている。長谷川哲社長がおススメするのは「隠岐誉 純米大吟醸斗瓶囲い」、同蔵のフラッグシップモデルだ。「斗瓶囲い」とは清酒もろみを袋吊りで搾り、最良の部分だけを一斗(18%)入りの瓶にとって貯蔵したものを商品化。蔵の最高級品として、全国新酒鑑評会や世界でもっとも権威あるワイン品評会IWC(インターナショナル・ワイン・チャレンジ) SAKE部門などでの受賞歴も多い。出雲杜氏と蔵人が心血注いで醸した、うっとりとする香りとまろやかな口当たりが自慢。

隠岐誉 純米大吟醸斗瓶囲い 1.8% 個装箱入り価格 1万2100円

隠岐酒造(株) 隠岐郡隠岐の島町原田174番地 Tel.08512-2-1111(代) https://okishuzou.com/



藻塩米と八朔で風味豊かに おきのしましまビール

島後の玄関口、西郷港すぐ近くの西町通りにある京見屋分店(17頁参照)のカフェスペースでは、コーヒーやソフトドリンク、クラフトビールなどを楽しむことができ、島民や移住者たちの憩いの場となっている。この店イチオシの「おきのしましまビール」は2019年、店主の谷田晃さんが島根県江津市のマイクロブルワリー、(株)石見麦酒とコラボして生まれたクラフトビール。麦芽に隠岐のブランド米「島の香り 隠岐藻塩米」を加え、油井地区でできた八朔を風味づけに使用したさわやかな逸品だ。ラベルは同店の人気者・コーギー犬のテンちゃんが目印。

おきのしましまビール 価格 770円 (※購入は現地のみ)

京見屋分店 隠岐郡隠岐の島町西町八尾3-81 Tel.08512-2-0425
京見屋分店 https://kyomiyabuntent.com/



「寒シマメ」の肝と上身を使った極上品 寒シマメ肝醤油漬け

スルメイカのことを隠岐諸島では「シマメ」といい、冬が一番おいしい時期のシマメを「寒シマメ」という。(株)ふるさと海士の「寒シマメ肝醤油漬け」は、かつて島の漁師が寒シマメの刺身に肝をといいた醤油をかけ、ご飯と一緒に食べていたことを思い起こして開発した人気商品。島で水揚げされたスルメイカを使い、旨味を逃がさないといわれるCAS凍結を施しているので鮮度バツグン。刺身のような寒シマメにココのある醤油が絡まり、深みのある味わいに。「寒シマメ丼」、ぜひご賞味を。

寒シマメ肝醤油漬け 80g²×5Pセット 価格2700円

(株)ふるさと海士
隠岐郡海士町福井1524-1 CAS凍結センター内 Tel.08514-2-1244
離島通販 島風生活。 https://www.shimakazelif.com/ic/cat-005

離島
直送便

これを選べば間違いナシ!!
厳選イチオシ!!
隠岐諸島の逸品

老舗の品から隠岐ユネスコ世界ジオパーク認定商品、話題の逸品まで、隠岐諸島を代表するオススメのお取り寄せ品やお土産品を一挙紹介!!

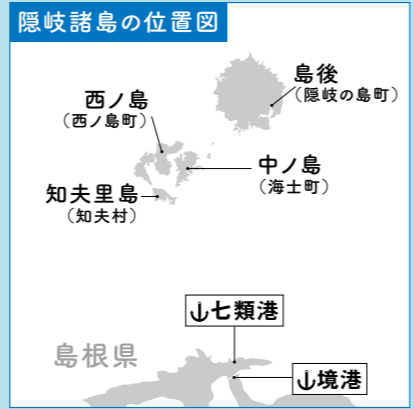
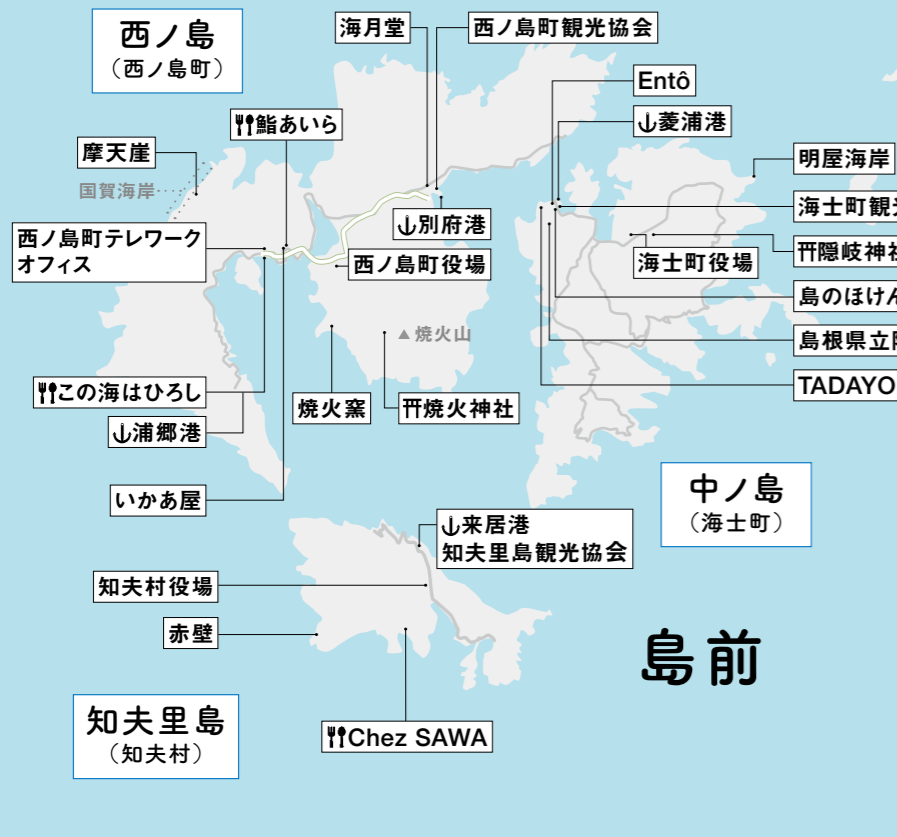
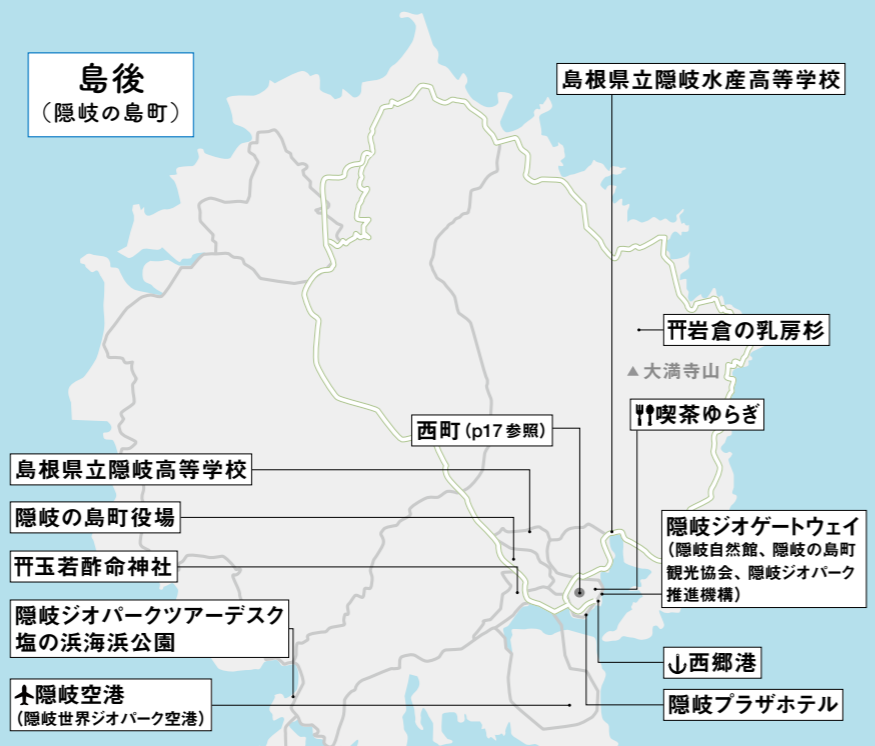
隠岐諸島MAP

【隠岐諸島】島根半島の北方40～80kmの日本海に浮かぶ4つの大きな有人島と、他の約180の小島からなる。円形でもっとも大きな島を「島後」、西南方向の西ノ島、中ノ島、知夫里島の3島を「島前」と呼ぶ。【総面積】345.92平方km【人口】1万8527人
 島後▶【隠岐の島町】【総面積】242.83平方km【人口】1万3000人
 島前▶【中ノ島(海士町)】【総面積】33.43平方km【人口】2303人【西ノ島(西ノ島町)】【総面積】55.96平方km【人口】2628人【知夫里島(知夫村)】【総面積】13.70平方km【人口】596人※島根県HPより(2023年7月時点)

【アクセス】

●空路／伊丹空港(大阪)ー日本航空(JAL)約1時間→隠岐世界ジオパーク空港(島後)、1日1便／出雲空港(島根県)ー日本航空(JAC)約30分→隠岐世界ジオパーク空港(島後)、1日1便
 ●海路／西郷港(島後)ー高速船 約30分・フェリー 約1～2時間→島前各港／境港(鳥取県)・七類港(島根県)ー高速船 約1～2時間・フェリー 約2時間～2時間30分→隠岐各港／島前3島間は内航船(「いそかぜ」と「フェリーどうぜん」)で約10～30分、1日21便

隠岐で宿泊(1泊以上)と体験(1つ以上)をすると復路のフェリー2等運賃が無料になる「おき得乗船券」キャンペーン実施中(～2024年3月31日)。ぜひこの機会に隠岐を巡ろう!!
<https://www.oki-toku.jp/>



JTB × 隠岐島前・島後4町村

「隠岐プロジェクト」で観光地域づくり



島後に移住し、(一社)隠岐ジオパーク推進機構で地方創生プロジェクトマネージャーを務める高橋秀幸さん(47歳)

隠岐島前・島後の4島で今、島外の企業人材による観光地域づくりの動きが盛り上がっている。JTBが各島にメンバーを派遣してすすめている「隠岐プロジェクト」を紹介したい。

JTBといえば旅行会社のイメージだが、実は地域交流や地域観光振興も手掛けている。「隠岐プロジェクト」はそのひとつだ。プロジェクト全体を統括するJTBの高橋秀幸さんによれば、これは同社と隠岐島前・島後の4町村、そして(一社)隠岐ジオパーク推進機構が協定を結び2022年4月にスタートしたもので、同社のメンバーが総務省の「地域活性化起業者制度」(地域おこし協力隊の企業版)を活用して4島に移住し、各自治体や観光協会などに席を置き3年間、地方創生に向けた活動を展開するという取り組み。「以前から旅行商品づくりや法人・個人への旅行営業だけでなく、全社的に地域交流や地域観光振興にも取り組んでおり、コロナ禍を機にプロジェクトが具体化した」という。

具体的には、実際に島で生活している隠岐プロジェクトのメンバー

らの意見を取り入れた「エース隠岐パンフレット」を作成し、全国のJTB店舗で販売したり、店舗スタッフを対象とした現地研修やオンラインでの勉強会を実施した。また、各島で宿泊施設のハード整備をサポートしたり、観光コンテンツの拡充やウェブサイト「隠岐の島旅」で宿泊や体験を予約できる仕組みを整えたりと業務内容は多岐にわたる。2023年上期には、JTBが主体となって隠岐への旅をテーマとしたテレビコマーシャルの制作・放映も行った。

ただ、「こうした取り組みの成否はやはり、地元の事業者や住民の皆さんとのつながりにかかっている」と高橋さん。「そのうえで、JTBがこれまで培ってきたノウハウを生かし、地域一体となって観光地域づくりを実践していければ」と話している。プロジェクトがはじまって約1年半、これからの動きに大いに期待したいところだ。



西ノ島町 観光定住課 地域活性化起業者(観光振興担当) 村瀬貴久 さん(41歳)
 私は西ノ島町役場に所属し、観光振興に尽力しています。JTBで隠岐の観光パンフレットを作成した際には、私を含む隠岐プロジェクトメンバー全員で意見を出し合い、島に暮らしているからこそわかる地域の魅力や楽しみ方を多数盛り込みました。これからは地域の方と連携し、ほかのプロジェクトメンバーとの情報交換も行いながら、さまざまな企画を打ち出していきたいと思っています。



(一社)隠岐の島町観光協会 地域コーディネーター 岸本昇也 さん(29歳)
 隠岐の島町観光協会に所属し、ユネスコ世界ジオパーク認定10周年記念企画のひとつ、「リアル謎解き宝探し 大地の鼓動と4つの島」の担当をしております。現状では、隠岐諸島を観光する人のほとんどが2日間で1～2島を回る程度ですが、3泊、4泊して3～4島を回ってもらえるよう、周遊を促す観光コンテンツを企画提案していきたいと考えています。



知夫里島観光協会 地域活性化起業者 観光振興担当 澤岡祐太 さん(37歳)
 知夫里島は魅力的な観光資源で満ちていますが、それを活用する観光事業者が少ないのが長年の課題です。そこで私は、観光協会が主体となってさまざまなツアーや体験を手掛ける取り組みを実践しています。現在は観光協会の職員がインストラクターの資格を取得したうえで、あらたにマリナクティビティ事業を立ち上げました。



海士町役場 交流促進課 地域活性化起業者 観光振興担当 竹原有美 さん(40歳)
 隠岐プロジェクトにはみずから手をあげて参加しました。島外の企業や人との交流が盛んな海士町で、観光・交流のためのさまざまなコンテンツづくりに携わっています。今後は観光客がもっと島を訪れやすくなるよう交通の便を整えるなど、観光の受け入れ体制をより強化していきたいです。そのために地域の飲食店や観光以外の事業者の方とも連携を深めることに努めています。

隠岐4島の観光・旅行サイト

Q 隠岐の島旅



隠岐を旅するならまずはアクセス!

隠岐諸島へ

ユネスコ世界ジオパークに認定されている離島、隠岐諸島。
豊かな生命に満ちた、自然に還れる場所です。



隠岐ユネスコ世界ジオパークサイト

Q 隠岐ジオパーク

